

目次

- 2 **巻頭のことば**
上野理事長に聞く
- 4 **過去問に学ぶ**
3級日文中訳問題
ワンポイント・アドバイス
- 6 **語彙をふやそう**
職業・労働・生産活動
- 8 **看图学惯用語**
絵で見る慣用語(4)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“既A, 又B” “既A, 也B”
“又A, 又B” “也A, 也B”
- 12 **中国語語彙学習の話**
語彙力と語彙サイズ
- 14 **新しいことばと古いことば**
数字語を覚えよう
- 15 **読者の広場**
欲穷千里目, 更上一层楼
「日本中国語検定協会賞」受賞への感謝
「中国語の発想 日本語の発想」を聴いて

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事, 写真, イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

上野理事長に聞く

聞き手：『中国語の環』編集室

——受験者数が減ってきているようですが。

確かに減っています。ここ2年ほどは、毎回、前年の同じ月の回に比べて2割ぐらいつつ減っています。

——原因は？

皆様ご存じの、とでもお答えしましょうか。難しいですね、国と国の付き合いは。ここは政治の話をする場ではありませんから控えておきますが、子供どうしは仲良くしたいのに、親と親の間がぎくしゃくしていて子供はとまどっているといったところでしょうか、今の日中関係は。

——でも明るい兆しも見えてきたように感じられますが。

そうですね、期待しましょう。いずれにしても、日中両国が付き合っていくうえにおいてことばの重要性は少しも変わらないのですから。

むしろこういう難しい時期だからこそいっそう学習に力を入れてほしいですね。ブームにあおられて学習にころざし、風向きが変わったからといって投げ出すというのでは寂しすぎませんか。

——大学や高等学校での中国語履修者数も減少しているそうです。

そうですね。そのあおりで検定試験の下の級の受験者の減りようが特に著しいようです。

——上の級はそれほど減っていないということでしょうか。

そうです。長年学習を続けてきた人や、現に中国語を使って仕事をされている方はそう簡単に投げ出したりはしません。

——準1級の二次試験は順調ですか。

極めて順調に実施されています。東京、大阪のほかに今年1月には上海でも実施しました。合格率も極めて高く、毎回90パーセントを超えています。皆さんあの難しい一次試験を突破してきたわけですから、当然と言えば当然ですが。

——二次試験は受験者の負担になっていませんか。

一次、二次と2回受けなければならないのですから、もちろん負担にはなっているでしょうね。遠方の会場に行くには時間もお金もかかりますし……。

でも、面接試験で直接実力を確認してもらえるということで、大半の受験者からは歓迎されています。

——1級は相変わらず難しいようですね。

そうですね。一次試験の受験者が300人前後で合格者は多くても10数名ですから、合格率は5%前後でしょうか。筆記85点、リスニング85点の両方ともクリアせよというのはハードルが高すぎるという苦情が寄せられることもあります。長年これ

で実施してきたのですから急に問題を易しくしたり基準点を下げたりするわけにもいきません。当分は現状のままで行くしかないでしょう。それに、中には「難しいほうが挑戦しがいがある」という頼もしい方もおられるようですから……。

——二次はやはりほとんど合格されるのですか。

「ほとんど」とは行きませんが、一度しくじっても1年後にもう一度挑戦して、大半の方が合格証を手に入れています。

——1級に合格すると通訳案内士試験の外国語筆記試験が免除されるのですね。

そうです。そのために1級を受けるという方が最近ふえてきています。

日本在住の中国の方や留学生で通訳案内士を目指す人は従来から多いようですが、このところ中国の大学の日本語科の学生で通訳案内士の資格を取得したがつている人がふえてきています。この学生たちや、彼らを指導している先生方も中検に関心を示しているようです。

——今後、日本の中国語学習者だけでなく、中国の日本語学習にも中検が利用されるようになるといいですね。

そうあってほしいですね。中国の日本語学習者は日本語能力検定試験で日本語の運用能力を証明してもらうことができますが、この試験だけでは日本語から中国語へ、或いは中国語から日本語への翻訳や通訳の力を測ることはできません。中検はこのところを重視した試験ですから、日中間にまたがつて仕事をしたいという人には大いに利用価値があると思います。

——同じことは日本人の中国語学習者にとっても言えそうですね。

言えます。皆さんご存知のHSK（汉语水平考试）、あの試験は中国語運用能力を測定するために開発された試験ですが、特定の母語を話す人を想定せずに世界共通のテストを目指しているために通訳や翻訳能力を測定するうえでは不向きです。

相手を誹謗したり手前みそを並べたりするつもりはまったくありませんが、公平に見て、私はそれぞれに長所があると考えています。ですから、中国に留学したり中国人社会だけで暮らすならHSK、日中間にまたがる仕事をするというのであれば中検を目指すのがよいのではないのでしょうか。

——台北会場の受験者がふえ続けているようです。

国内および中国大陆での受験者が減少傾向にあるなかにあつて、香港、シンガポール、特に台北会場が好調です。

台北に公開会場を設けて5年目を迎えますが、当初予想していた以上に受験者がふえ続けています。事務局を引き受けてくれている語学学校の熱心な取り組みに加えて、台湾日本人会、台北日本人学校、日本交流協会などの好意的な配慮があつてのことですが、今後のいっそうの発展が期待されます。

台北での実施に当たっては大陸の普通話と台湾の国語、簡体字と繁体字、拼音方案と注音字母の違いなど、いくつかの問題を抱えていることが気がかりでしたが、中国語を使うからには普通話にも簡体字にも拼音にもこの機会に親しんでおこうと、皆さん積極的に受け入れてくれているようです。

3級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス

『中国語の環』編集室

3級筆記問題の第5問は日文中訳で、毎回20字前後の日本語の文を中国語に改める問題が出題されています。いずれも文法の基本に沿ったものばかりです。

今回は2012年度の3回の試験について、問題文と解答例を掲げ、ポイントはどこにあるか、陥りやすい誤りはどこかなどを簡単に記してみました。2013年度以降の問題については協会編の『解答と解説』（年度版、各回版）を参照してください。

【第77回（2012年6月）】

- (1) 今晩はこれ以上ワインを飲まないことにした。

今晚晚上不再喝葡萄酒了。Jīntiān wǎnshàng bú zài hē pútáojiǔ le.

ポイント 「これ以上…しないことにした」は“不再…了”です。文末の“了”を忘れないように注意しましょう。

- (2) 昨日彼らすべてが報告を聞きに来たわけではない。

昨天他们没都来听报告。Zuótiān tāmen méi dōu lái tīng bàogào.

ポイント 「すべてが…したわけではない」は部分否定ですから、“没都…”を使います。全否定なら“都没…”です。

- (3) もし今日が日曜日ならば、街はもっとにぎやかなはずだ。

今天要是星期天的话，街上会更热闹。

Jīntiān yàoshì xīngqītiān dehuà, jiēshàng huì gèng rènao.

ポイント 仮定形ですから、接続詞“要是”または“如果”（rúguǒ）を使います。「…のはずだ」は助動詞“会”で表現します。

- (4) 彼は料理を速くおいしく作る。

他做菜做得又快又好吃。Tā zuò cài zuòde yòu kuài yòu hǎochī.

ポイント 「速くおいしく」のような動詞や形容詞の並列には“又…又…”を使います。“做菜做得…”は単に“做菜…”としてもかまいません。

- (5) あの映画は見れば見るほどおもしろい。

那个电影越看越有意思。Nàge diànyǐng yuè kàn yuè yǒu yìsi

ポイント 「…すればするほど…だ」は“越…越…”を使います。“那个电影”は“那部 bù 电影”としてもかまいません。

【第78回（2012年11月）】

- (1) この本をカバンの中に入れてください。

请把这本书放进书包里。Qǐng bǎ zhè běn shū fàngjìn shūbāo lǐ.

ポイント 「入れる」とか「しまう」などの動作性の強い動詞は、客語（目的語）を前置する“把”構文で訳します。

- (2) あなたは一昨日の何時に着いたのですか。

你前天是几点到的？ Nǐ qiántiān shì jǐ diǎn dào de?

ポイント 「着く」という動作が完了していることはわかっていて、何時に着いたかを知りたいのですから、“是…的”の構文を使います。

- (3)私は中国語を学んでもう3年になります。

我学汉语已经学了三年了。Wǒ xué Hànyǔ yǐjīng xuéle sān nián le.

ポイント 「学び始めて3年になる」(学習はまだ続いている)というのですから、“学了三年了”とします。文末の“了”を落としてはいけません。

- (4)まず食事をして、それから宿題をしましょう。

先吃饭，然后再做作业。Xiān chī fàn, ránhòu zài zuò zuòyè.

ポイント 「まず…して、それから…する」は、“先…，然后…”とします。“然后”の後に“再”を加えるとより中国語らしい表現になります。

- (5)このパソコンは使いやすいだけでなく値段も安い。

这台电脑不但好用，而且价格也便宜。

Zhè tái diànnǎo búdàn hǎoyòng, érqiě jiàgé yě piányi.

ポイント 「…だけでなく…だ」という累加関係を表すには、“不但…而且…”を用います。「使いやすい」は“好用”でも“好使”(hǎoshǐ)でもかまいません。

【第79回 (2013年3月)】

- (1)周先生は日本に来てもう2年余りになる。

周老师来日本已经两年多了。Zhōu lǎoshī lái Rìběn yǐjīng liǎng nián duō le.

ポイント 「…してどれだけになる」は「動詞(+客語)+時間量+“了”」の構文を使って表現します。文末に“了”を加えることを忘れずに。

- (2)韓国語がわからないので、彼女に翻訳をしてもらおう。

我不懂韩国语，所以请她翻译。Wǒ bù dǒng Hánguóyǔ, suǒyǐ qǐng tā fānyì.

ポイント 原因と結果をいう表現ですから，“因为…，所以…”の構文を使います。上の訳例では文頭の“因为”(yīnwei)を省略しています。

- (3)今日の中国語の授業に山下君はまた遅刻した。

今天的汉语课山下又迟到了。Jīntiān de Hànyǔ kè Shānxià yòu chídào le.

ポイント ここでの「また」はすでに行われた動作が繰り返されることを言っていますので，“又”を使います。

- (4)彼女は車の運転だけでなく、修理もできる。

她不但会开车，而且还能修理。Tā búdàn huì kāichē, érqiě hái néng xiūlǐ.

ポイント 「…だけでなく、…も」は“不但…而且…”を使います。「運転ができる」の「できる」は“会”，「修理ができる」の「できる」は“能”です。

- (5)私は何回も書いてみたが、どうしてもちゃんと書けない。

我写了好几次，怎么也写不好。Wǒ xiěle hǎojǐ cì, zěnmě yě xiěbuhǎo.

ポイント 「何回も」は“好几次”，「どうしても…できない」は“怎么也…”の後に不可能の表現を使って表します。「ちゃんと書けない」は“写不好”です。

職業・労働・生産活動

『中国語の環』編集室(U)

“衣”“食”“住”“行”に関する語彙を一通り見てきたので、今回は職業とそれに関連する労働・生産活動に関する語彙を取り上げる。

一口に“职业”(zhíyè)と言っても、それこそ千差万別で、“医生”にしても“中医”(zhōngyī—漢方医)、“西医”(xīyī—西洋医)、“牙医”(yáyī—歯科医師)、“兽医”(shòuyī—獣医)……とさまざまに分かれる。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40語以上	30語以上	20語以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル
☐ 1. 工作	gōngzuò	仕事。	
☐ 2. 劳动	láodòng	労働。	
☐ 3. 生意	shēngyì	商売。〈买卖 mǎimai〉とも。	
☐ 4. 工人	gōngrén	労働者。	
☐ 5. 临时工	línshígōng	臨時工。	
☐ 6. 农民	nóngmín	農民。	
☐ 7. 牧民	mùmín	牧畜者。	
☐ 8. 军人	jūnrén	軍人。	
☐ 9. 商人	shāngrén	商人。	
☐ 10. 店员	diànyuán	店員。	
☐ 11. 售货员	shòuhuòyuán	販売係。	
☐ 12. 推销员	tuīxiāoyuán	セールスマン。	
☐ 13. 服务员	fúwùyuán	服務員，サービス係。	
☐ 14. 经理	jīnglǐ	支配人，社長。	
☐ 15. 法官	fǎguān	裁判官。	
☐ 16. 律师	lǚshī	弁護士。	
☐ 17. 医生	yīshēng	医師。〈大夫 dàifu〉とも。	
☐ 18. 护士	hùshi	看護師。	
☐ 19. 保姆	bǎomǔ	保母。	
☐ 20. 飞行员	fēixíngyuán	パイロット。	
☐ 21. 司机	sījī	運転手。	
☐ 22. 投递员	tóudiūyuán	郵便配達人。〈邮递员 yóudiūyuán〉とも。	

□23. 炊事员	chuīshìyuán	炊事係，食堂従業員。
□24. 厨师	chúshī	コック，料理人。〈大师傅 dàshifu〉とも。
□25. 理发员	lǐfàyuán	理髮師，理容師。
□26. 工程师	gōngchéngshī	技師長。
□27. 技师	jìshī	技師。
□28. 木匠	mù·jiàng	大工。
□29. 鞋匠	xié·jiàng	くつ職人。
□30. 园丁	yuándīng	庭師，園芸職人。
□31. 导游	dǎoyóu	ガイド。
□32. 翻译	fānyì	通訳，翻訳者。
□33. 编辑	biānjí	編集者。
□34. 作家	zuòjiā	作家。
□35. 画家	huàjiā	画家。
□36. 记者	jìzhě	記者。
□37. 演员	yǎnyuán	俳優。
□38. 导演	dǎoyǎn	映画監督，舞台演出家。
□39. 音乐家	yīnyuèjiā	音楽家。
□40. 歌手	gēshǒu	歌手。
□41. 播音员	bōyīnyuán	アナウンサー。
□42. 话务员	huàwùyuán	交換手，オペレーター。
□43. 职员	zhíyuán	職員。
□44. 公务员	gōngwùyuán	公務員。
□45. 办事员	bànshìyuán	事務員。
□46. 打字员	dǎzìyuán	タイピスト，ワープロ入力者。
□47. 会计	kuài·jì	会計，出納係。
□48. 秘书	mìshū	秘書。
□49. 警察	jǐngchá	巡査，警官。
□50. 工业	gōngyè	工業。
□51. 轻工业	qīnggōngyè	軽工業。
□52. 重工业	zhònggōngyè	重工業。
□53. 农业	nóngyè	農業。
□54. 林业	lín yè	林業。
□55. 渔业	yú yè	漁業。
□56. 畜牧业	xù mù yè	牧畜業。
□57. 服务业	fú wù yè	サービス業。
□58. 工厂	gōngchǎng	工場。
□59. 公司	gōngsī	会社。
□60. 商店	shāngdiàn	商店。

絵で見る慣用語 (4)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



耳朵软 ěrduo ruǎn

(しっかりした考えがなく) 軽々しく人の言うことを信じる。

他耳朵软，听人家一说就信以为真了。
彼はしっかりした考えがなく、人の言うことをすぐ本気にしてしまう。



发脾气 fā píqì

(事が思うようにいかないの) かんしゃくを起こす；当たり散らす。

你发谁的脾气？おまえは誰のことでかんしゃくを起こしているのか。



饭来张口，衣来伸手 fàn lái zhāng kǒu, yī lái shēn shǒu

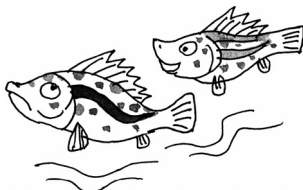
ごはんが口元に来たら口を開け、衣服が体のそばに来たら手を伸ばす；自らは何もしないで人に頼りきりの安楽な暮らしをする。座食する。



发横财 fā hèngcái

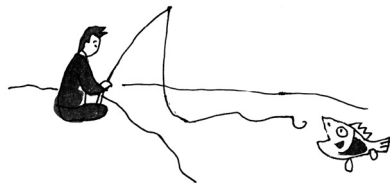
(多く不正な手段で) 大金を手に入れる；ぼろもうけする。あぶく銭を手に入れる。

他发了一笔横财。彼は思いがけない金を手に入れた。



翻白眼(儿) fān bái yǎn(r)

(怒りや不満から) しろめ勝ちに人を見る；冷たい目で見ると。しろめをむく。气得他直翻白眼儿。腹を立てて彼はじろっとしろめをむいている。



放长线，钓大鱼 fàng chángxiàn, diào dà yú

長い糸を垂れて大きな魚を釣る；(眼前の小さな事には目をくれず) じっくり構えて大きな成果を得る。



放马后炮 fàng mǎ hòu pào

事が終わった後でとりかかる；後の祭り。げすの後知恵。“马后炮”は中国将棋で“马”の後に“炮”で攻める手。手遅れのたとえ。



赶潮流 gǎn cháo liú

時代の潮流に追随する；時流を追う。ブームに乗る。
热中于赶潮流，出风头。ブームに身をやつし，目立ちたがる。



给面子 gěi miàn zi

顔を立ててやる。“给脸”とも。
他一点儿也不给面子，让人下不来台。
彼は人のメンツなどまったくお構いなしで，のっぴきならないところまで追いつめる。



风里来，雨里去 fēng lǐ lái, yǔ lǐ qù

風の日も雨の日も働き続ける；苦勞をいとわないたとえ。



高不成，低不就 gāo bù chéng, dī bù jiù

望むものは手が届かないし，手が届くものは気に入らない。結婚相手や仕事の選択について用いる。



挂羊头，卖狗肉 guà yáng tóu, mài gǒu ròu

羊頭を懸げて狗肉（くにく）を売る；
看板には羊の頭を掲げておきながら，
実際には犬の肉を売る。見掛けは立派であるが，実質が伴わないことのたとえ。羊頭狗肉。見掛け倒し。

“既A，又B” “既A，也B” “又A，又B” “也A，也B”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯 曉琨

“既A，又B” “既A，也B” “又A，又B” “也A，也B” はいずれも並列関係を表す複文の構造です。具体的に言うと，“既，又” “既，也” “又，又” “也，也” は主語の後に置かれて，述語AとB（複数の性質や状態）が同時に存在することを表します。たとえば，

- (1) a (○) 她既聪明，又漂亮。
- b (○) 她既聪明，也漂亮。
- c (○) 她又聪明，又漂亮。
- d (○) 她也聪明，也漂亮。

例(1)では，四つの表現はどれでもよく，「彼女は賢く，綺麗です」という同じ訳文となります。例(1)に関しては，四つの表現の違いはほとんどないと言ってもいいですが，あえて言うなら，aとbは書き言葉的で，cとdは口語的であると言えます。しかし，例(1)の条件を変えれば，その違いが見えてきます。以下の〈ケース1〉～〈ケース3〉について見てみましょう。

〈ケース1〉

例(1)では，複文の前後文は同じ主語です。まず，この条件を変えてみましょう。

- (2) a (×) 这一带路既窄，车又多，常常发生交通堵塞。
 - b (×) 这一带路既窄，车也多，常常发生交通堵塞。
 - c (○) 这一带路又窄，车又多，常常发生交通堵塞。
 - d (×) 这一带路也窄，车也多，常常发生交通堵塞。
- (このあたりは，道も狭く，車も多いので，よく交通渋滞が起きる。)
- (3) a (×) 她既喜欢唱歌，我又喜欢唱歌。
 - b (×) 她既喜欢唱歌，我也喜欢唱歌。
 - c (×) 她又喜欢唱歌，我又喜欢唱歌。
 - d (○) 她也喜欢唱歌，我也喜欢唱歌。

(彼女は歌を歌うのが好きで，私も好きです。)

例(2)も(3)も前後文の主語が異なる場合です。

(2)と(3)に示されたように，主語が異なると，“既A，又B” “既A，也B” を用いることができません。一方，主語が異なる場合でも，述語も違う場合には，“又A，又B” しか用いることができないのに対し，述語が同じである場合には，“也A，也B” しか用いることができません。ちなみに，“也A，也B” は，次のように主述述語文の述語としても使えます。

- (4) 他民乐也想学，舞蹈也想学。

(彼は民族音楽も習いたく，ダンスも習いたがっている。)

＜ケース2＞

例(1)では、述語の“聰明”も“漂亮”も“她”についてのプラス評価です。つまり述語AとBは同一の性質を持っています。

次にこの条件を変えると、どうなるか見てみましょう。

(5) a (○) 她既想吃, 又怕烫。

b (×) 她既想吃, 也怕烫。

c (○) 她又想吃, 又怕烫。

d (×) 她也想吃, 也怕烫。

(彼女は食べたいが、熱いのがこわくて食べられない。)

例(5)では“想吃”と“怕烫”は同一性がなく、対立しています。日本語の訳文でも逆接を表す「が」で訳されています。

例(5)に示されたように、述語AとBが対立している意味である場合には、“既A, 又B”“又A, 又B”は用いることができますが、“既A, 也B”“也A, 也B”は用いることができません。

もう二つ用例を挙げます。

(6) 他心理很复杂, 他既望子成龙, 又不想全家一股脑进城。

(彼は心情が複雑で、子どもが出世することを切に望んでいるが、家族全員で都会に引っ越そうと思っていない。)

(7) 我又怕被他说, 又愿意被他说。

(私は彼に叱られることを恐れる気持ちを持っている一方、彼に叱られたい気持ちも持っている。)

＜ケース3＞

例(1)では、述語AとB（複数の性質や状態）が同時に存在する。つまり、AとBは時間的ずれがありません。今度はこの条件を変えてみましょう。

(8) a (×) 家里来了几个客人, 既买东西, 又做饭, 忙了一整天。

b (×) 家里来了几个客人, 既买东西, 也做饭, 忙了一整天。

c (○) 家里来了几个客人, 又买东西, 又做饭, 忙了一整天。

d (×) 家里来了几个客人, 也买东西, 也做饭, 忙了一整天。

(家にお客さんが数人来たので、買い物をしたり、料理を作ったりして、一日中忙しかった)

例(8)では述語“买东西”と“做饭”は同時進行ではなく、時間においては継起的です。例(8)に示されたようにAとBが継起的な行為である場合では、“又A, 又B”しか用いることができません。

以上の＜ケース1＞から＜ケース3＞までの分析により、“既A, 又B”“既A, 也B”“又A, 又B”“也A, 也B”の四つとも用いることができるのは以下の三つの条件をすべて満たす場合であることも明らかになりました。一つ目は前後文の主語が同じであることです；二つ目は述語のAとBは同一的な性質や状態を持っていることです；三つ目は述語のAとBは同時に存在することです。

語彙力と語彙サイズ

関西大学 沈国威

一つの外国語をものにするには、できるだけ多くの単語を覚えなければならないことは自明であろう。特に複雑な文法規則のない中国語の場合、語彙量そのものが往々にして言語能力の重要な標識になっている。多くの学習者は聞き取れない、話せない根本的原因を語彙量の不足に帰している。

ではどうすればより多く、より速く外国語の語彙を覚えられるのだろうか。外国語の語彙を効率的に覚えるには、重要なポイントが2つある。1つは、体系的に語彙を捉えること。なぜなら単語とは呼ばれるが、実は語は1つ1つ単独で存在しているのではなく、互いに様々な、例えば近義語、反義語、上位下位語といった形で関連づけられているからである。いま1つは目標言語、ここでは中国語になるが、その語彙を他の言語の語彙と比較対照する場合どこがどう違うのかを知っておくことである。言語が異なればその語彙体系の構造、性質も異なる。学習者は目標言語の語彙体系の特徴をしっかりおさえ、その特徴に基づいて学習法を決めなければならない。

これから数回に分けて、上記の2点を中心に中国語の語彙学習法について話してみたいと思う。第1回としてまず語彙力と語彙サイズについて考えてみよう。

外国語を学ぶ者として、誰々さんはボキャブラリーが豊富だというような言葉を耳にしたことがないだろうか。この語彙の「量」に関する何気ない評価は実際のところ、次の2つの違う解釈ができると思う。1つは、ある言語使用者が様々な物、事、動作、状態を表す語を多く知っていることで、もう1つの解釈は、ある言語使用者が同一の物、事、動作、状態を表現するのに異なる語を多く知っていることである。仮に前者を語彙の広さ（**词汇的广度**）と呼び、後者を語彙の深さ（**词汇的深度**）と呼んでおこう。例を挙げて説明すると、中国語の家族、親族の言い方について、“伯伯、叔叔、姑姑、舅舅、姨、岳父、岳母、嫂子、老丈人、丈母娘……”を知っている人は、“父母兄弟姐妹”しか知らない人より、語の範囲が広いことになり、また、“妻子”を表す語に“太太、夫人、媳妇、孩子他妈、内子、拙荆……”などまで知っている人は、“老婆”しか知らない人より語の奥行きが深いということである。つまり語彙の広さは異なる物・事を表す語の数で、広ければ広いほど、いろいろな物、状況、事件を表現することができる。対して、語彙の深さは、同じ、或いは近い意味を持つ語の数のことであり、深ければ深いほど、微妙なニュアンスを区別でき、また具体的な場面、文脈、状況に応じてよりふさわしい語を選ぶ能力を有することである。一口で言えば、語彙の広さと深さは、それぞれ表現の可能性と精密さに関係するのである。中国語の常用語彙は56008語とされる（『現代漢語常用詞表（草案）』商務印書館、2008）が、この56008語は、4000ほどの同義語群に整理統合する

ことができる。1つの同義語群に1つの代表語を選出したとしよう。この代表語は、語彙の広さを司るものである。また同義語群の中には複数の語が存在するが、同義語の数は語彙の深さに関係するということになる。

「ボキャブラリーが豊富だ」という文のこのような2つの解釈は、誰に対して言うかによって、決まってくる。外国語の初級・中級学習者に対して言う場合、だいたい語彙の広さを意味するであろう。一方ネイティブや外国語の上級学習者に対して発せられた場合、語彙の深さを意味するのが普通である。日常生活の範囲内で、比較的専門的な内容（これらの語を語彙学では「専門用語」と呼ぶ）を除けば、ネイティブは語彙の広さという点において語彙量がほぼ同じであると推測される。だからネイティブ同士が会話する時、普通相手が特定の単語が分からないだろうとは考えていない。しかし語彙の深さでは、同じ母語を話す人であっても大きな差がある。小説家、詩人、芸術家の語彙量は一般人より多いと言われるが、それは主に語彙の深さに違いがある。例えば、結婚している二人のことを“夫婦”“夫妻”或いは“两口子”と言うことを一般人は知っているが、全ての人が“伉俪”(kànglì)の意味を知っているとは限らない。

外国語学習には“循序漸進”“由浅入深”という原則があるが、この原則を語彙学習に適用すればどのようなことになるだろうか。初級段階の学習者の主要な課題は語彙の広さを拡大することであろう。一定の語彙の広さがなければ、表現上の自由がない。ある物、事に対して、その名称も知らなければ、それを巡る会話は成り立たないだろう。初心者が身振り手真似で悪戦苦闘しているのはそのためである。広さに関係する語は、基本語彙として一般語彙、上級語彙の拡大にも大いに役立つ。母語話者も年齢、教育、職業、地域等によって、知らない単語に遭遇するが、こういう場合、言い換えや説明などの方法で問題を解決していく。例えば“伉俪”はどういう意味？と聞かれたら、それは“夫婦”の意味を表す上品な語だよというふうに。語彙の広さを拡大するには、直接学習法、つまり集中的に単語帳を暗記することが最も有効だと考えられる。ただし現在一般に市販されている単語帳は、必ずしも語彙の広さと深さの違いを考慮して編纂していない。初級者用の単語帳はできるだけ同義語を排除すべきだと筆者は考えている。

ところで、中級・上級段階になると、学習者は語彙の深さを意識的に拡大させる学習にシフトしなければならない。中・上級の中国語能力試験では、主に語彙の深さを試す問題が出されることに気づいているだろうか。語彙の深さを高めるには、いわゆるシソーラス（類義語辞典、詞藻辞典とも言う）が有効であるが、残念なことに外国語学習者のためのシソーラスはまだ存在しない。英語教育も日本語教育も然りである。

語彙の深さは表現の正確さと豊富さに密接に関係している。絶えず語彙の深さを高めていくことは外国語学習者の課題であるばかりでなく、母語話者の努力目標でもある。

数字語を覚えよう

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李鍾強

数字は元来数量の意味しか表さない計算のための文字に過ぎないが、言語学上では「数詞」として分類されており、長期的に使われているうちにさまざまな文化的要素を内包しながらも、豊かな意味を持った数字語が生まれてきた。今回は日常でよく使われている数字語を拾ってそれぞれの特徴を見てみよう。

“一见如故”（初対面ながら旧知のように意気投合する），“一言难尽”（一言では語り尽くせない），“一衣帯水”（一衣帯水）といった“一”で合成された四字成語が数多くつくられているが、いずれも自然数の最初の数としての本義を表している。しかし“一心一意”（一意専心），“一意孤行”（我意を張る）のように“心”や“意”を付けると「ひたすら」という派生義が生じるものもある。

偶数を表す“二”は、「双方」または「対等」の意味を持つ語句として作られたものが多く見られるが、その場合、特に成語や俗語の中に“二”の代わりに“兩”を用いるのが普通である。“兩全其美”は「双方ともうまく行くようにする」，“进退兩难”は「進退きわまる」，“兩敗俱傷”は「争った双方ともに痛手を受ける」，“兩小无猜”は「幼い男女は相手を疑うこともなく無邪気に遊ぶ」，“兩相（廂）情愿”は「双方ともうまくいくようにする」などがある。

“三”を使った数字語の特徴としては、数が多いことを表すものがある。“三思而（后）行”の“三思”は「三回考える」ということではなく、「よく考える」ことから、全体の意味は「よく考えてから行動する」である。他に“三番五次”（何度も何度も），“三令五申”は（繰り返し命令や警告を発する），“三心二意”（あれこれ考えて心に落ち着きがない），“三令五申”（繰り返し命令や警告を発する）のような他の数字と併用した成語もあるが，“三”の用い方はいずれも数の多いことを表す。

“四”は昔から東西南北という四つの方角を表す意味として用いられたことから「あらゆるところに及ぶという意味範疇」に派生義が生じる語が多く存在する。例えば“志在四方”は「遠大な志を抱く」，“四海为家”は「天下どこにでも家がある」と考える，“四邻八舍”は「隣近所」，“四平八稳”は「四方八方平穩無事である；積極性・創造性に欠ける」という意味である。

“五”のつく成語が比較的多いが、古代の「陰陽五行説」の影響を受けながらできた語が多い。例えば、古人は青・黄・赤・白・黒を“五色”と言うことから，“五彩缤纷”（彩りがはなやかだ）, 中医学が心・肝・脾・肺・腎を“五脏”と称することから，“五脏六腑”（腹中）, 両手・両ひざおよび頭を五体と称することから“五体投地”（五体を地に伏せる；最も恭しい礼）のような造語が生まれる。いずれも「五行」哲理を反映させた言い回しである。

欲穷千里目，更上一层楼

弁護士法人北浜法律事務所 弁護士 安藤勝利

私は司法試験を準備していた学生の頃、本誌の学習者の声にて「中国業務に携わる弁護士を志す」（第77号16頁）という表題の投稿を寄せた。その後約7年の年月を経て、その頃描いた将来の目標はおおむね達成しようとしている。現在は弁護士としては5年目を迎えているが、直近の2年間は北京大学への留学、北京や台湾の法律事務所での業務経験を得ることができた。もっとも、中国に関わる業務を扱う弁護士としては、決して豊富な経験があるとは言えず、ようやく出発点に立ったに過ぎない。

“欲穷千里目，更上一层楼”は、「学問などを窮めようとするれば、更に一層努力すべきである」という唐代の詩句である。弁護士の仕事はともすれば、華やかに見えるかもしれないが、決して安定した仕事ではなく、clientへの良質のサービスを提供するためには常に自己研さんが求められ、厳しい競争にもさらされている。近年、特に企業法務の分野においては、日本人の弁護士の間の競争に止まらず、外国の弁護士との間の競争も意識してゆかねばならない。そのため、競争力を高める一つの方法として、私は中国語のみならず、英語を用いた案件対応もできるよう、日々努力を重ねている。

弁護士の仕事に「窮める」といった状況は存在しないが、自分の仕事がより多くの方々の幸福に貢献できるよう、これからも努力を惜しまず進んでゆきたい。また数年後、その結果をご報告できることを思い描いて。

「日本中国語検定協会賞」受賞への感謝

創価大学文学部4年 加藤将吾

私にとっては「通過点」。だから、結果よりも出場した「事実」に意味を持たせたいと思っている。「4年生になったら弁論大会に出よう」。1、2年生頃から、そう心の中で決めていた。4年生の今、大会に出るだけの実力があったのかは疑問だ。それでも、大会に出る決意を固め、準備を進めた。とはいえ、他の出場者はみな留学経験者。留学どころか海外渡航経験すらない私には、勝ち目のない勝負に思えた。そのためか、気負いなく当日を迎えた。本番。発表内容を忘れることはあったが、言おうとしたことは言えた。優勝はできなかったが、出たという「事実」に意味があると思う。大会に参加したからこそ自分の語学力を再確認でき、様々な人と関わ

ることもできた。そして、「日本中国語検定協会賞」をいただいたのだから。

今は、いつか中国か台湾に行きたいと思っている。その「いつか」のために、中国語学習により一層励もうと思う。この大会を「通過点」として。

「中国語の発想 日本語の発想」を聴いて

長崎外国語大学 現代英語学科 片桐雄真

私は、先日、長崎県立大学シーボルト校で開催された日本中国語検定協会理事長上野恵司先生の貴重な講演会に参加することができた。

私にとって、中国語検定協会は大変遠い存在であったが、第一印象は私のイメージからはとても離れていた。物静かなとても優しい先生だった。先生は、講演会の中で自らの中国語とのかかわりの歴史を語られた。日本では、中国語の「ち」の字も聞か聞かない時代に中国語を勉強したということに時代の流れを感じた。そして、先生の御苦労話を聞くうちに、その優しい顔の奥に隠れた猛烈なオーラをひしひしと感じた。

私は、1年の台湾留学と半年の台湾ワーキングホリデーを通し、どちらかというと感じ的に体で中国語を学んだが、先生が話された「頭を使った、知識としての中国語の発想」の一つひとつが、とても新鮮かつ刺激的で、中国語という言葉に対しての探究心を掻き立てられた。

また、講演会の後の時間を使って、私の質問にも大変丁寧に答えてくださったことは、今でも心に響いている。大陸と台湾の中国語の相違、軽声や儿化、政治や経済などの専門的な言葉の違い、簡体字と繁体字の話など、中国語を学ぶ私にとって大切なことをたくさん教えていただいた。とても実りのある1時間で、もっと聞いていたかった。「卵が先か鶏が先か」つまり、「中国語」を学ぶ者として「言葉を学ぶことが先か文化を学ぶことが先か」。こういった視点に立ってもっと「中国語」を知っていききたい。

今回の上野先生の講演会に参加できた喜びを胸に更に前進していきたい。心から感謝いたします。

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、検定試験に関することなど、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈します。

なお、ご投稿いただいた原稿を掲載するにあたり、編集室側で若干の加筆・修正をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。